

分科会（事例検討会）

第1分科会・・・障がい者施設

＜常総ふれあいの杜 応接室＞

- 事例発表
- ① 常総ふれあいの杜 土田 誠一
「M・I様 入所からの歩み」
 - ② 守谷市障がい者福祉センター 熊沢 詩織／猪狩 邦子
「S様の支援を考える」
 - ③ 障がい者グループホーム 綾部ゆかり／遠藤 大輔
「行動障がいのある利用者への支援」

検討課題 行動障がいのある利用者の支援について、職員の支援の統一を図るにはどうしたらよいか？

1. 支援内容を決めても全職員に周知できない場合がある
2. 職員が自分の立場・価値観で支援をしてしまう
3. 同じ支援をしても職員によって利用者が敏感に感じてしまい好ましくない行動をしてしまうことがある
4. 職員のスキルを上げることが大切。持続的な啓蒙活動が重要
5. 支援の内容について、意味やその背景、必要性を伝えていく必要がある
6. 職員間のコミュニケーションを密にする
7. 利用者の代弁者として支援を考える
8. 支援者側がしっかりと基礎知識を身につける(障がい特性等)

- 感想意見
1. 分科会での話し合いで、各施設の意見が聞けたことが良かった
 2. 違う役割の職員が集まり課題やアドバイスなどの話し合いが出来たら良い
 3. 様々な課題や取組みなどの支援を考えることは大変だが、利用者の幸せ、活き活きとした姿を見ることが、私達の仕事の醍醐味ではないか
 4. 課題について一人で抱え込まず、話し合う場があれば職員の士気が少しずつ変わっていく



第2分科会・・・高齢者施設介護職員

＜特別養護老人ホーム 食堂＞

- 事例発表
- ① 川越キングス・ガーデン 林 俊洙
 - ② 筑波キングス・ガーデン 野田 望

川越キングス・ガーデンの特養で定期的に取り組んでる事

- 新規の入居者に対する歓迎会
 - ・他の利用者との交わりを持つことにより、早く馴染め、家族の評判も良いとのこと。
- その人を知ろうシート
 - ・まず、家族に書いてもらい、それをケアに活かす事によってスタッフの不安の軽減できる。
 - ・入所後は、施設のパソコンで管理し、新しい情報を更新することにより、新しい発見もあり、家族にも喜んで、安心して下さる。
- 外出のアクティビティ
 - ・外食や買い物をする事によって、いつもと違う表情や様子を見ることができる。
 - ・利用者とうまくコミュニケーションが取れず、好みがわからない場合は、「その人を知ろうシート」を活用している。



○外出できない利用者さん

- ・喫茶店を開き、できない時があると利用者のほうから「喫茶店はないの？」と聞いてくるぐらい好評である。

○ターミナルケアについて

- ・「光の部屋」という個室に移っていただき、何でもノートを作成し、利用者の写真や様子などをヘルパーが記録し、天に召されたあと、家族にお渡ししている。
- ・ヘルパーは、ミーティング後に利用者の部屋で賛美をしたり、声かけをして、利用者が一人ではないことを伝えるようにしている。
- ・ターミナルケアは辛いけどどう看るかが一番大切なので一番力を入れている。

○ターミナルケア後

- ・悲しみに寄り添う「ブリーフケア」を大切にしている。忙しくても、これらの事は続けていきたい。

○他施設のターミナルケア

- ・普通の病院では、裏口からご遺体をお見送りするが、キングスは正面玄関から讃美歌で見送るので、家族に喜んでいただいている。

*ご遺体のお預かりについて

社会福祉法人なので長くて1週間「次の利用者、稼働率の問題点等」で、その間の冷房代等は施設が無償で負担している。

(川口キングス加藤部長)「現場の職員はあまり考えないことなので言いました」。

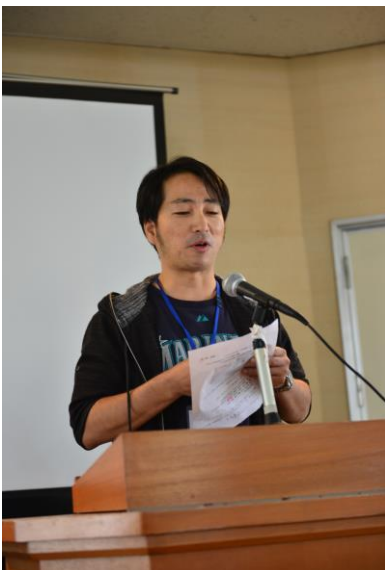
筑波キングス・ガーデンの特養の取り組み、日々の心がけについて

○日々の心がけについて

- ・ユニット事にケアプランを立てて園内研修で発表している。
- ・利用者中心で尊厳(自分らしさ)を守る。
- ・ヘルパー間、また他職種との連携を密に行い、また専門性を大切にして、誰もが安心して生活できる環境作りを目指している。
- ・今年のテーマ→ワンランク上の自分を目指す→主に環境整備、安心、安全な介護。

○ターミナルケアについて

- ・牧師先生が手を握ったりして、お祈りする。そのなかで利用者の微かな反応や様子を見逃さないでキャッチ出来るように観察している。
- ・天に召されたあとは、キリスト教式のお別れ会を行っている。



ディスカッション

○胃ろうに対する考え方について

- ・胃ろうにせざるを得なくなった時、まず家族に病院に入院して、胃ろうを造設するか、造設しないで施設で看とるか聞くが、もうその時は利用者の意向ではなく、家族の意向になってしまうので、できれば利用者が元気なうちに聞いておくのがベストではないか。
- ・上記の話が出て、川越キングス・ガーデンのケアハウスの職員に普段経口摂取が出来なくなった時の話を利用者とするか、聞いたところ、あまりしないとのことであった。

○仕える事の意味について

- ・させていただく。
- ・不眠不休で利用者のために働く事はもちろん出来ないが、そういう姿勢、気持ちが大切なのではないか。
- ・自分の気持ちを訴える事の出来ない利用者の気持ちを察知してまたそれを行動に移す行動力が大切なのではないか。

○モチベーションを保つには

- ・辛い時は辛いと言える環境作り(共有)する事が大切ではないか、愚痴で終わらずに、じゃあどうしたら良いのかをみんなで考えるのが大切である。

○最後に

- ・シアトルのクリスタのテーマは「神様の愛を示すことが大切」であるが、これから各自の現場に戻ったら、職場のみんなに神様の愛を発信していきましょう。

事例発表 ・特別養護老人ホーム カナン 本間 翔一
「適温提供について」

○食事提供のあり方と問題点

・チルドだけでは対応できない献立もあり、イベント時や行事食などの提供時は、サーブでの提供をお願いし、普段なかなか提供することが出来ないメニューやご利用者から要望や思考にあわせた献立の立案、提供を実施している。

例・・・おやつレク、調理レク、郷土料理の旅

・適時・適温の食事提供を目指し、なるべく出来たてに近いものを提供するようにしている。

・チルド、サーブのメリット・デメリットはあるが、いかに適温で提供出来るかが今後の課題である。



第4分科会・・・看護職員・機能訓練指導員

事例発表 ・草加キングス・ガーデン 萩原 由香
「ターミナルケアの取組みについて」



○在宅の看取りについて

事例・・・A様:96歳女性、退院後在宅サービスを受ける。デイ週2回。今年8月肺炎にて在宅で点滴、酸素、食事摂取困難、家人の介護は困難で看取りを検討しているとケアマネから連絡。

- ・ショート、デイを利用したいが緊急時の搬送は拒否
- ・在宅での看取りとは？
- ・医療面でどこまで希望するのか？可能なことは？
- ・特養では家族(相続人)全員の同意と本人の同意を得ている。緊急時の意向はあらかじめ医師に伝える必要があると説明する。

事例発表 ・筑波キングス・ガーデン 吉田 春香
「認知症と統合失調症への取組み」

○精神作業療法の実践

①歩行訓練の動画

症状：ご飯を食べていない、ここがどこかわからない等の認識記憶の低下

対応：言葉掛けの工夫、具体的に伝える等安心感もてるようにする
気持ちを表面化させる。思い出と気持ちを共有し自覚してもらう

②感情失禁の動画

症状：陽性症状・・・幻覚、幻視、幻聴、幻味など

陰性症状・・・感情鈍麻、気分の平板化

まとめ ①フィルターを作る・・・好きなこと、得意なことをする

②現実感を持つ・・・体を動かす



感想意見

- ・栄養士：目の前でラーメンや汁物を提供しているのが勉強になった。
おやつレク、調理レク、郷土料理の提供は素晴らしい、施設に持ち帰りたい。
- ・PT, OT：具体的な関わりが良かった。関わり方のヒントをいただいた。
歌って覚えることで表情が良くなる。言葉掛けが重要。
- ・看護師：在宅での看取りが多くなってきている。
本人の気持ち、家族の気持ちに応えられるのか難しい。
家族(相続人)全員から同意書ももらっているのはすごい。

総括

- ・職種別の合同の分科会であったが、一人の利用者を他職種で支えていることが実感できた。
- ・多職種、多施設の意見を聞くことはKG連合研修の醍醐味ではないか
- ・思いは神様中心、利用者中心で実践は違っても気持ちはひとつではないか

第5分科会・・・介護支援専門員(居宅ケアマネ) <グループホーム 作業室>

事例発表 ① 筑波キングス・ガーデン 坂入 越生
「主の恵を届ける介護支援サービス」



検討課題 ○困難事例の対応方法について

- ・介護放棄的状态の中で失禁、居室内の散乱
- ・緊急時に家族に連絡がつかない

感想意見

- ・サービス事業所だけで抱え込まず、ケアマネに報告相談し、包括支援センター、医師、消費者センター、弁護士等に相談したり地域ケア個別会議にて検討して頂く。
- ・ケアマネを通じ医療情報のアセスメントや緊急時連絡体制を確保して頂くことが必要。

事例発表 ② 練馬キングス・ガーデン 吉川 宏美
「ありのままのその方の生活を1日でも長く続けて頂くために」

検討課題 ○自立支援の視点をどのように反映させたらよいか

- ・認知症、糖尿病あるが偏食(栄養バランス)が心配
- ・認知症の進行による服薬忘れ、判断力の低下(エアコン、レンジの誤操作等)
- ・訪問介護員を家政婦と思い、住み込みを希望される

感想意見

- ・ヘルパーからケアマネに報告相談し、ケアマネがもっと詳しくアセスメントや調整をすることで、根拠ある効果的なサービス提供に繋げる
- ・買い物に同行する事でご本人の能力を維持する方法も考えられる
- ・その方はどう生きていきたいのか? 「愚行権」という考え方もある。
経済的に可能ならば介護保険外のサービス利用もあるのでは?
提案の結果ご本人がどう選択されたかを記録に残す
- ・事業者や家族だけで決めず、ご本人の意思を尊重する
- ・地域により、認定結果、入所施設数、移動距離(山間部)、人員条件も様々であることを再認識した



総括

通所介護と訪問介護から、ご本人達のために事業所が苦慮しているケースでした。様々な意見が出ましたが、ケアマネを中心に関係者が集まり、カンファレンスを重ねていく必要があるとの総意になりました。

ご本人の希望と、ご家族やスタッフが最適と考える支援との隙間を話し合い、調整していく難しさと大切さを学びました。

また、様々な地域性があり、在宅サービスの形態・量・質の違いを再認識しました。



第6分科会・・・生活相談員(施設ケアマネ含む) <ケアハウス 1F親睦室>

事例発表 ①川口キングス・ガーデン 岩田 恵美 「川口キングス・ガーデンの課題」

- ・川口KGを取り巻く環境
- ・医療依存度の高さ
- ・低い知名度
- ・待機者数減少に対する対応
- ・家族との関わり
- ・対応の工夫

②川越キングス・ガーデン 大類 和也 「デイサービスの取組み」

○2017年度QC活動

- ・一人ひとりに最適なかかわり方とは
- ・利用者の発したサインを見つける目を養う
- ・楽しんでいただくために大切にしていること
- ・少しだけ心に余裕を持つ



検討課題

1. 知名度が低いと思うのはなぜか？
2. 地域に向けた研修とは？
3. 「サインを見つける」ためのスタッフの教育は？
4. 課題について話し合う時間がとれない(カンファレンスも)
5. ケアマネ(相談員)として書類に追われ利用者や拘わる時間がない
6. 家族への報告が相談員に集中してしまう

感想意見

◇待機者確保の取組みについて

- 待機情報の共有が出来ていないのでは
在宅担当者の営業(新聞広告、ポスティング)
ボランティアや地域教会からの問い合わせがある
デイサービス⇒ショートステイ⇒特養入所の流れ
ケアハウス入居者が介護度によって特養入所できるという安心感
申込者が亡くなっていることもあり再調査をしている
医療との連携が大切
ケアハウスでは入居可能な時点で「まだ大丈夫」と断られるケースがある

◇家族とのかかわり方について

- 独居からの入所の場合などで、保証人が遠縁で連絡が取れない
NPOの身元引き受け代理がある(あくまで身元保証人)
預かり金の連絡等により、1・2ヶ月に1回は家族と会っている
家族の生存確認として、利用料は窓口か振込みのみで自動引き落としはしない
第2第3の連絡先を把握する必要がある
看取りや胃ろうについて家族同士で意見の違いがある



事例発表 ① 草加キングス・ガーデン 平井 正治 「草加KG・川口KGの協力牧師会の働きの紹介」

- ・担当の日は、草加・川口の両方でメッセージの奉仕をしているなど、写真をみながら紹介。(移動は車で15分程)
- ・キングス・ガーデン埼玉の法人で墓を所有している。
 - 入居者でも職員でも希望者は墓に入る事が出来る。
- ・礼拝でマイクを使用しているが、きちんとマイクに声が入るように使用するのが大切。
- ・奉仕日を忘れてしまう事がある。
 - 草加(川口)では、前日に施設から連絡が入る。奉仕日を忘れてしまった経験の先生が何名かおられ、お互いが慰められた。
- ・礼拝のスケジュールは、出来るだけ埋めるようにしている。前の月で空欄がある時は、世話人が集まり、振り分けている。
- ・筑波でも、出来るだけ埋めるようにしているが、牧師先生の予定が入っていない時は、職員が入居者の礼拝で証している。(特養)
- ・入居者が受洗に導かれても、家族の協力を得るのが難しい時がある。牧師が上手く対応するようにしている。
- ・礼拝の後など、入居者とお祈りする時は、出来るだけ手を触れて行なうと、喜ばれる。名前を呼びながらお祈りするのも良い。
- ・高齢になり、自動車免許の返納も考えているが、車の運転が出来ないとキングス・ガーデンでの奉仕も出来なくなる。
- ・年齢の若い先生にとっては、人生の先輩であり、教職者としての先輩に対して語ることになる。奉仕をしている入居者の中に、指導をしてくださった主任牧師だった方がいらっしやる先生もおられた。暖かな眼差しで聴いて下さり、励まされる。
- ・シアトルに行かれた牧師先生もいらっしやった。ぜひ、一度は、牧師もシアトルで研修を受けて欲しい。



② 筑波キングス・ガーデン 小此木正司

- ・筑波KGでは、協力牧師が35名(30教会)登録して頂いているが、実際に奉仕して頂いている方は、半分くらい。メッセージの奉仕も遠のいていて、協力牧師会にも出席していない先生を残しておくのかを話し合っただけであった。メッセージの奉仕に来ることが出来なくても、名簿に名前があることで「キングス・ガーデン」を覚えて祈って下さる。申し出がある前に、協力牧師会からは削除の確認は行なわない。
- ・牧師は、教会内では責任がある立場であり、「牧師」としての意見が強くなることもある。あくまでも「協力」という立場を忘れないようにする。
- ・メッセージの内容:天国の話が多い。信じる、信じないより誰でも救われるを前に出す。
- ・「天の御国」は分かり難い人もいるので、「天国」というようにしている。
- ・デボーションの内容:聖書箇所をファイルに記入し、他の牧師と共有している。
- ・協力牧師会(会合)は、年に2回開催している。

感想意見

- ・最後の時の牧師の役割が、施設(職員)に浸透していない。
- ・牧師がケアをしながら協力牧師として働いている方もいらっしやる。
- ・クリスチャンでない職員に「牧師」を受け入れてもらう事が難しいことがある。
- ・率先して施設の掃除をする事で、職員にも話をきいてもらいやすくなった。
- ・職員の霊的ケアをワンポイントで行なうようにしている。
- ・施設での礼拝は、月に1～2回。
- ・協力牧師としての役割が十分に理解を得られていないところから、牧師4人で始めた。現在、ケアハウスで夫婦が始めた讚美集会を教会として関わっている。30人中19人が参加している。
- ・デボーションのメッセージは「アパルム」を使用している。職員と入居者は同箇所からになるが、視点を変えている。また、メッセージの中で、一曲讚美をするようにしている。

- 事例発表 ① 草加キングス・ガーデン 栗原 基
② 練馬キングス・ガーデン 中島 真樹
③ 呉ベタニアホーム 里村 佳子

- 検討課題
- ・東京近郊の時給が上がり人材確保が難しい
 - ・外国人雇用(永住外国人)の検討
 - ・ケア感(理念の共有)の一致の仕組み作り
 - ・運営と現場の間にいる相談員の育成(法令遵守等)
 - ・意見の吸い上げ、辞めない取組み
 - ・地域とのつながり(子供、学生、防災、祭り参加)
 - ・尊厳ある介護を目指すには



感想意見

- ・将来を見据えた教育が中々出来ない。組織作り、チーム作りに課題。主任の下のリーダー育成の問題。
- ・関東KGの中堅研修を実施、各施設へ持ち帰り他施設の状況が学べる。
- ・OJT(研修ビデオを作成)の活用やステップアップミーティング
- ・時間管理の徹底(ビジネススキル)
- ・フィリピンやベトナムの方の採用が増えている
- ・今年度の県監査では、加算体制のチェックを重要視され人員配置を徹底して見られた。
- ・帰り辛い雰囲気にならない。自己管理を徹底し、人手がないと言わない。地域の共同体で人材を見つけている。
- ・機能訓練加算が基準を満たさず減算返金となってしまった。
- ・上級職員(リーダー)育成が課題、社協主催の研修に参加させている。
- ・退職者が多くなると理念の継続が困難になる。
- ・後継者(施設長クラス)が不在で、事業継続の危機にある。
- ・新規施設を計画中、要人の人材確保や理念の構築が現在の課題である。
- ・ボランティア組織の活用、責任ある活動をお願いしている。また施設から地域に出て行くボランティアを育成している。
- ・障がい者の受け入れを積極的に行っている。高齢者のみならず児童養育事業や託児所が地域交流の場にもなっている。
- ・限界集落、人がいない地域にある。刑期終了者の受け入れを検討中。
- ・ボランティアコーディネーターの必要性を感じている。
- ・高齢者のボランティアがほとんどである。また遺族がボランティアに参加し、ボランティア間の交流がある。
- ・特養建設を計画中、「キングス・ガーデン」としての立ち上げ方法を学びたい。



日本キングス・ガーデン連合事務局
〒300-2521茨城県常総市大生郷町1818-2
☎0297-24-5139 FAX0297-24-2491
E-mail: tkghoujin@kings-garden.or.jp